

出席者からのコメント（後日談を含みます）

（永生会:Aさん）

- ・南多摩病院は、コロナウイルス患者を受け入れ、治療している
 - ・訪問看護ステーションには防護服等が全くなく、工夫して手作りし何とか凌いでいる
 - ・訪問看護は見合わせの依頼(キャンセル)が多く、家族だけで頑張っておられる状態が多発
 - ・電話による容体確認(体調、食欲等)が重要となっており、電話で繋がる事はすごく心強い
 - ・「高齢者の孤立対策」は、まちづくりには欠かせない課題と思います
- プロジェクトチーム作られるなら、お知らせくだされば、参加させていただきます
- ・コロナウイルスでも発熱3日までは経過観察、4日続けばすぐに抗ウイルス薬投与して、重症化を防ぐ医療が必要です。
 - ・8日までに一気に重症化するのが特徴ですので、その切り替わりのタイミングを見逃さないことが重要です。
 - ・一人暮らしの高齢者が自己管理するのは大変かと思います。
 - ・体調不良は3日目にはご近所が把握できるようなツールが欲しいですね

（永生会:Bさん）

- ・リハビリ職で介護予防にも関わっており、地域包括支援センターにヒアリングも行なっているが、事は深刻
- ・要介護の方々はまだ良いが、要支援の方々は大半が支援をキャンセルして家に閉じ籠っているため、フレイルが大変心配される
- ・支援センターも、今まで積み上げてきたものがほとんど機能しない状況になりつつある
- ・高齢者はオンラインでつながる事が難しいので、コミュニケーション・情報発信(アウトリーチ)をどうするか、ラジオ・テレビをどう活用するか悩ましい(ネットには期待薄?)
- ・貴協議会にて始動を予定しているノルディック ウォーキング等の活動が活発化し、八王子中に広がることも期待しております

（めじろ会:Cさん）

- ・通所介護には、リスクがあるという意見と、通ってきてくださいとの意見の両方がある
- ・緊急事態宣言の「stay at home」と介護保険の「継続したサービスの提供」という矛盾の中で、職員にも不安とストレスが続いています
- ・通所介護の登録者の内、数名が家にいる状況
- ・電話による確認は、ご家族のところで止まってしまい易く、特に衛生面の問題が気になる
- ・3週間在宅にて頑張ってきたが、耐えられずに通ってこられた例もある
- ・長期戦になるので、今後の運営面も心配な状況

（元永生会:Dさん）

- ・高齢者の活動低下は自粛との関係で問題が大きく、基礎体力が低いゆえに何かあると機能低下→重篤化しやすい
- ・問題の最小化は、地域の大きな課題である
- ・例えば、ノルディック ウォーキングを3~4人で距離を保って行なうとか、何とか活動を再開できないか

（むつみ会:Eさん）

- ・長年一人で生活しているので、今回急に変わったところは個人的にはあまりない
- ・シニア会・むつみ会・町会では、6月末までは活動ストップの状態であり、更に継続か
- ・趣味・娯楽・サークル等の活動もストップで、年齢の高い方ほど孤独感に陥っているが、個人的には花や野菜等を育てたり、皆さまに配ったりして、活動に心掛けている

(むつみ会:Fさん)

- ・イベント・ツアー・行事等あらゆるものが中止、美術館等の施設も閉鎖、一人暮らしも相まって孤独感が大きい
- ・先日、平山城址公園に弁当持参して一人で行った、人影はまばら、14,000歩歩いた
- ・フレイル防止に心掛けている

(大月先生)

- ・「新型コロナウイルスに負けないまちづくり」は、是非1つのテーマにした方が良いと思っている。

(町会:Gさん)

- ・高齢者もそうだが、マンション住まいのご家族(子ども・障がい者を含む)はどうだろうか、多分お元気な方々が多いので、散歩を始め運動等はされていると思うが、ケアが必要な場面もあるのでは？

(大月先生)

- ・親子関係・DV がよく話題になっている、これはコロナだからではなく、大きな災害の際に顕著に現れやすく、そこに注目して研究をされている方々がおられます
- ・何れ3つのワーキンググループでこの問題は取り上げるので、高齢者だけでなく、子育て、若者、障害者対応も取り上げていく

(東大:Hさん)

- ・助産婦として臨床で働き、今は大学院で看護学の研究を行なっています
- ・妊婦さんは、心配・不安等の多い中、これまでは妊娠学級や助産師からの集団教室で、出産～子育てに関する事柄を対面で受けてきたが、仲間作りで孤立する方も増えている
- ・これらの問題に対応するために、助産師がチームを作り、オンライン講座を Facebook や Zoom などを実施している状況です